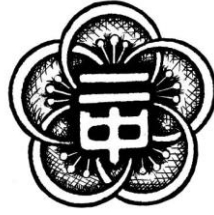


中野区立第二中学校学校だより

若葉 第183号



平成29年3月24日

平成28年度第11号  
発行者：校長 池田浩二  
広報委員会

## 中野二中は理想の星座（卒業式式辞）

校長 池田 浩二

3月17日、本校第68回の卒業式を挙行し、92名の卒業生を送り出しました。式辞の一部を紹介します。（前半略）

みなさんに望む二つめのことは、「理想を高く掲げ、それに向かって努力のできる人」になってほしいということです。みなさんが入学してから3年間、機会あるごとに歌ってきた本校の校歌の一節にこんな言葉が歌われています。

「中野二中は理想の星座

永遠の光を仰ごうわれら」

遠い昔、現代のように様々な文明の利器がなかったころ。夜は漆黒の闇に包まれ、空には満天の星が輝いていました。一説によれば、何も娯楽のない時代の羊飼いたちが、星と星を結んで、様々な物語を空想し、星座として星をとらえる概念が生まれていったといわれています。

星座は人々の様々な空想力をかき立て、多くの物語を生み出しました。

また、私たち人類は星に導かれて新しい世界を切り開いてきたという歴史も持っています。人類が海を渡って新天地を求めた時代。まだ羅針盤や海図やコンパス等の近代計器が存在しなかった頃、人々は夜空に輝く星の位置を手掛かりに、未知の大海原を航海していったといえます。星座には空想力を生み出す力と、迷えるものを導く力があります。

来年本校は創立70周年を迎えます。昨年度までに、1万5138人の卒業生を送り出し、今回みなさんがその中に加わり1万5230名の卒業生を誇る伝統ある学校になりました。その一人一人が中野二中という理想の星座を作る大切な一部です。高い理想や目標を掲げ続けることは難しいことかもしれません。自分に負け、自分に妥協し、周囲に流されてしまいそうな自分がいるかもしれません。また、目標はどんなにすばらしく、格好のいい言葉で語られても、それを裏付ける努力がついていかない人を見ることもあります。

「星を仰いで 地を歩む」

常に高い理想を掲げ、地道な努力を惜しまない人になってください。そして、誰もが自分の居場所を見出し、そこで輝ける星となってください。



## 中野区特別支援学級（固定学級） バasketボール・ポートボール交流会

2月27日（月）二中アリーナで二中・四中・七中の特別支援学級バスケットボール・ポートボール交流会がありました。三校が日々の練習を發揮して競い合うのは、連合運動会ぶりでした。普段は仲の良い生徒たちも試合の時は、真剣な眼差しで自分のチームを勝たせようと奮闘していました。真剣勝負を経験して、学ぶものは多いと思います。来年度は都のバスケットボール大会に出場予定ですので、練習の成果を發揮してくれることを期待しています。

**結果**                   バスケットボール優勝      中野二中Aチーム・Bチーム・中野四中  
                              ポートボール優勝          中野七中Aチーム



## 専門学校体験授業

3年生は、3月8日（水）に中野区の専門学校の先生方にご協力いただき、体験授業を行いました。事前に希望調査を行い、7講座の中から興味のある内容を選び、実習しました。

「ホテルのレストランサービスやカクテル作りに挑戦」したり、「レベルの高いダンスのパフォーマンス」をご指導いただいたり、「建築模型制作をプロ仕様の道具で体験」したり、ブライダルの専門学校では「本物のウエディングドレスやタキシードを試着」し、体験者の笑顔があふれていました。

感想をみると、「フルーツのすごい切り方を知り、自宅でやってみようと思った」「ドレスを着てみると重かったが、貴重な体験をすることができた。ウエディングプランナーは人に幸せを与える素敵な仕事だと思った」と、『将来の職業』に向けての考える機会にもなりました。

ウエディングドレス・タキシードを着てみんな幸せな気分

建築模型に取り組む様子・どんな作品に完成したかな



## 校内作品展

3月3日（金）～9日（木）まで校内作品展が行われました。1年生は都内巡りの学習新聞、2年生は上級学校訪問の学習、3年生は国際交流発表資料など、各学年行事のまとめが発表されました。また、1組では書写や絵画、細かい作業で仕上げた刺繍作品が、そして各教科からは授業の取り組みの成果を展示しました。生徒は校内に展示された友達の取り組みや作品を鑑賞して、お互い学び合え

る良い機会となっています。それぞれの展示物から生徒の多面的な能力を垣間見ることができます。多くの保護者の皆様にご参観いただき、ありがとうございました。展示期間は終了しましたが、各階で引き続き展示している作品もありますので、ご来校の際にはぜひご覧ください。

### 3年社会科見学 - 八景島シーパラダイス-

3月9日(木)、3年生は社会科見学として八景島シーパラダイスに行ってきました。それぞれが仲の良い人とグループを作り、思い思いの楽しみ方をしていました。当日は天気も良かったため、アトラクションにもほとんど乗れたり、水族館のショーや海の景色も素晴らしく、最後の思い出作りには絶好の日でした。昼食も各グループでとり、フードコートで食べているグループや、バイキング形式のレストランで食事をしているグループもあったりと、普段ではなかなか経験できないことを味わえたのではないのでしょうか。

これから3年生は卒業していきますが3年間の様々な思い出を胸に、高校生活でも様々なことにチャレンジしてほしいと思います。



### 薬物乱用防止教室

3月10日、3年生を対象に薬物乱用防止教室を実施しました。今年度は、ダルクの方をお招きしてお話を伺いました。講演では、自身の体験談を語っていただきました。中学生までは、ごく普通の野球少年だったそうです。高校生の時に友達に誘われ、最初は断っていたけれど周りの友達の「怖いのか?という言葉」や「空気が読めない人と思われたくない」、そして1回くらいなら、と軽い気持ちで、薬物を乱用し始めました。その後はどんなに止めようと思っても自分の意思では止められなかったそうです。今では、ダルクの力を借り、薬物を断つことができたそうですが、20年経った今も薬物を使用してしまうのではという不安があるそうです。今の日本では、4人に1人が薬物乱用を誘われ、そのうちの39人に一人が実際に使用してしまいます。薬物乱用の怖さを知って、しっかり毅然と断ることがとても大切です。

生徒感想「薬物が意外にも身近にあることがわかりました。誘われる確率が日本でも4人に1人、海外だと4人3人なんて、想像もしていませんでした。また、一度の使用で大切なものを全て失う可能性があるということもわかりました。薬物で得られる感覚は、この世にないくらいのもので、聞いたことがあります。私にそれを自分の力で止めることができるとは思いません。だから、誘われても、NOと言える、また、周りに断れないでいる人がいたら、助けることができる大人になりたいです。」  
※ダルクとは薬物依存症に陥った人達が回復を目指すためのリハビリ施設です

## 「3年生の進路の話を聞く会」

卒業式を間近にして3年生にとっては忙しい中ではありましたが、4名の3年生から進路の選択をどのようにしたか。どのような学習をしてきたのか。部活動などの課外活動にどのように努力してきたか。将来の夢などについて話をいただきました。

高校選びでは体験入学や学校説明会に参加して自分に合っている高等学校を選択する力を磨くことや、入試の内容をよく調べて対応の仕方をよく考えておくことが大切であることを話してくれました。中学校生活では遅刻、早退、欠席などが無いよう生活習慣をしっかりとすることが大切であること。受験勉強は夏休み前からスタートしたけれど、1・2年生が今学習している勉強がとても大切でしっかり力をつけて3年生にならないと高校へ提出される評価や評定は急にはアップしないなど今の学習が大切だと話がありました。

学習に集中できない時には、自分の好きなスポーツや友達と遊んでリラックスしたりすることにより気持ちを切り替える事をしてきた事や教科によって学習に工夫をすることも大切だと具体的な話もしてもらいました。短い時間ではありましたが、1・2年生にとって身近な先輩からわかりやすく教えてもらうとても貴重な時間でした。



特別支援の選択肢として、通常級に在籍しながら、必要に応じて別教室で指導を受けることができる「通級指導」があります。

制度化された平成5年度、中学校での対象者は全国で296人にすぎませんでしたが、平成27年度には9500人を越えたことが文部科学省の調査でわかりました。小学校も加えると、この9年間で約2.2倍にまで増えたということです。これは特別支援教育の理解が学校はもちろん、社会の中での認知度が進み、理解が深まったからだといえます。

また文部省は、この通級指導を高校まで拡大する方針で、平成30年度から開始する方向で検討しているそうで、ニーズが増えていくことは確実であるようです。一方で、通級への理解不足からくる抵抗感や偏見、周囲の理解、設置校や指導教員の動員などの整備体制が、実施に向けた大きな課題としてあげられています。(ベネッセ教育情報サイトより)

中野区の中学生の通級指導教室は中野中学校にあります。二中では今年度も連携して教育活動を行い、本人の自立を援助する成果を上げてきました。来年度も、生徒一人一人の課題や困難を改善・克服できるよう、様々な支援を進めていきたいと思えます。

